

2025年11月30日降臨節第1主日

イザヤ書2章1－5節

ローマの信徒への手紙13章11－14節

マタイによる福音書24章36－44節

早いもので、2025年も残り一か月となりました。本日は降臨節第一主日、教会暦は一足先に新しい暦となりました。本日から聖餐式聖書日課がA年です。

降臨節第一主日の福音書は、ABC年どの年でも、「小黙示録」の部分となります。その年の「終わり」に近づいているこの時期であり、同時にイエス様の誕生を祝うクリスマスの準備を始めるこの時期に、新しい「始まり」を迎える「終りの日」に向けて、「目を覚ましていなさい」とイエス様が命じていることから学ぶためです。

福音書を学ぶ前に、旧約日課イザヤ書2章1節以下に触れてみたいと思います。イザヤ書のこの箇所は、『聖書（旧約）』の中で「平和」について記している有名な箇所です。「**主は国々の間を裁き、多くの民のために判決を下される。彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦いを学ぶことはない**」（イザヤ2：4）は、主なる神様が国家の争いを裁く方であることを示します。また、そうであるがゆえに、人間が用いる戦いの道具は農機具に変えられ、人間は戦うことを学ばなくなる、それらのことから、まことの平和とは何かについて語っています。その平和は、武力の均衡が保たれた平和ではなく、主なる神様が望まれる平和です。ただし、紀元前に預言者イザヤによって語られたこの平和は、現在も実現していません。現在も世界各地で戦いが繰り返され、戦いの拡大を防ぐために、むしろ戦いの準備が始められているようです。その意味では、イザヤ書の語るまことの平和は、非現実的なものかもしれません。しかし、『聖書』が示すまことの平和は、すべての人間の目標であり希望として大切です。

さて、福音書ですが、イエス様のその黙示的な言葉では、ノアの箱舟のことが触れられています。ノアの箱舟の出来事は、「**主は、地上に人の悪がはびこり、その心に計ることが常に悪に傾くを見て、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた**」（創6：5-6）と、主なる神様がこの世界の荒れようを見て、一度世界終わらせた出来事です。現代風に言えば、世界全体を洪水で一回リセットした物語です。そして洪水の後、主なる神様は「**人のゆえに地を呪うことはもう二度としない。人が心に計ることは、幼い時から悪いからだ。この度起こしたような、命あるものをすべて打ち滅ぼすことはもう二度としない**」（創8：21）と決め、ノア・人間と虹の契約を交わします。すなわち、人間の世界に直接介入することをしないと決められたのです。新し

い契約に生きるわたしたちキリスト教会は、古い契約という言葉を用いますが、このノアとの虹の契約も古い契約の一つです。

さて、ノアの出来事以降、この世界の責任を負うこととなったのは勿論人間です。そしてそのための指針として神様は「律法」を与えました。その法律を守って歩んでいけば、この世界は神様の前に平和になるはずでした。しかし、世界中で戦いは繰り返され、現在に至っています。先に見たとおりイザヤを通して本当の平和について、主なる神様の言が与えられましたが、戦いの歴史は繰り返されています。

そのような中で、イエス様は、「小黙示録」といわれる終りの日についての教えを語ります。その内容は、「**人の子が来る場合も、このようである。40 その時、畑に二人の人がいれば、一人は取られ、一人は残される。41 二人の女が臼を挽いていれば、一人は取られ、一人は残される**」(マタイ 24:39-40)と、ノアの出来事と同じくらい少し恐ろしいものです。また犠牲者が出るのは仕方がないというようなことも書かれています。だから目を覚ましていなさいと教えておられるのですが、なんとも納得いかない部分もあります。

イエス様は、この黙示的な言葉で何を語ろうとしたのでしょうか。イエス様がこの言葉を語られた時、ユダヤはまだ戦争中ではありませんでしたが、マタイ福音書が書かれ、最初に読まれた時には、すでにユダヤは、主なる神様が関与されると期待したローマとの戦争に破れ、エルサレム神殿は破壊され、崩壊していました。犠牲者についてのイエス様の言葉は、記憶に新しい身近なことであったのです。イエス様は、そのような未来を予期して、自分を信じるものだけが例外的に救われると教えられたのでしょうか？そうではないと思います。また、原始キリスト教会の人びともそのようには受け止めていないと思います。この未来に対する少々暗い予告的な言葉は、ほんとうの平和が、人間の様々な思いを越えたところにあることを示しているのだと思います。たとえ主なる神様に何かを期待し、それが人間の考えで最善だと思えても、人間の思いとおりはしないことを示しているです。

わたしたちは、毎年、この小黙示録から降臨節第一主日に学びます。そして、毎年、現代のわたしたちの世界には、残念ながらまだ戦いがあることを認識します。今も、戦いの中で新しいアドベントを迎えている人もいますでしょう。戦いがたえず繰り返される、その意味では、イエス様の登場以前も以後も変わりません。しかし、だからこそ、今年も繰り返し、『聖書』から、主なる神様がどのような意志でこの世界を創造され、また何を望んでおられるかを改めて知りたいと思います。

今ある戦いを止めるための、とにかく戦いをやめる「停戦」という事柄も大切です。しかし、その「停戦」が、新たな戦いへの準備とならないように、まことの平和を目指して、今年も平和の主である御子の誕生を祝いたいと思います。